

船舶事故等調査報告書

平成24年10月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012広第118号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成24年2月8日 16時30分ごろ	
発生場所	福山港 広島県福山市所在のJFEスチール福山港新涯導灯 ^{しんがい} （前灯）から真方位133°935m付近 （概位 北緯34°27.2′ 東経133°24.9′）	
事故等調査の経過	平成24年6月29日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 押船 ^{みょうじん} 明神丸、167トン 132282、内田建設株式会社 B バージ みょうじん、5,000トン（積トン数） なし、内田建設株式会社	
乗組員等に関する情報	A 船長A、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A プロペラ翼先端が曲損 B なし	
事故等の経過	A船は、船長Aほか6人が乗り組み、船首約4.0m、船尾約5.0mの喫水で海砂を積載したB船を押航してA船押船列を構成し、平成24年2月8日16時00分ごろ福山港に入港して荷揚げ予定地の岸壁に近づき、B船の船首に一等航海士と甲板長が、A船の操舵室に船長が、船尾に二等航海士と甲板員がそれぞれ配置に就いて着岸作業中、16時30分ごろ、JFEスチール福山港新涯導灯（前灯）から真方位133°935m付近において、A船の船尾が浅所に乗り揚げた。 A船は、自力で離礁後、着岸して荷役を終えたのち、造船所に上架したところ、A船のプロペラ翼全3枚に曲損が発見された。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 3 海象：潮汐 下げ潮の末期、海上 平穏	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし A船押船列は、福山港において着岸作業中、余裕水深を確保していなかったことから、A船の船尾が浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、A船押船列が、福山港において着岸作業中、余裕水深を確保していなかったため、A船の船尾が浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	
参考	本事故後、船舶所有会社の運航管理者は、乗組員に対し、入港時には潮位、風向などを考慮すること、また、船尾配置員は、船長に周囲の状況を適切に報告することを周知した。	

	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 潮汐表により、着岸作業時の水深を確認して余裕水深を十分に確保すること。
--	---